

(1 4) 学校施設整備事業

整理 No	14	評価単位名	学校施設整備事業			
担当課	学校運営課	評価責任者	学校運営課長 鈴木 さよ子	担当係 グループ名	学校施設係	

事業の目的・目標

目的/ 根拠法令等	各学校(園)が教育目標や教育ビジョンを達成するため、教育環境をより充実したものに
目標	老朽化が進んでいる学校施設の安全性を確保し、良好な学習環境を整備する

目標に対する達成見込み

達成度指標	算定式等指標 の説明	ベースライン (19年度)	20年度 見込み	ベースラインに 対する 達成見込み	目標値	目標設定の考え方
					(達成年度)	
大規模改修工事件数 (校数)	計画的な大規模 工事件数	13校	23校	176%	22校 (H30)	老朽化が進行している校舎等を計画的 に改修工事する

主な取り組みと事業をとりまく社会状況

事業内容	小・中学校大規模環境整備事業				
運営形態		委託の内容			
主な取り組み内容		平成17年度	平成18年度	平成19年度	事業をとりまく社会状況
小・中学校大規模工事件数(校数)		13校	10校	13校	<p>学校は、児童・生徒の学習の場及び生活の場としての安全・安心で快適な学習環境を確保し、教育内容・方法の多様化及び情報化や環境保護等の社会情勢の変化に対応して、生涯学習や地域活動等のまちづくりの拠点として開かれた学校とすることが求められている。</p> <p>区内の学校数は、小学校23校、中学校8校の合計31校あり、このうち、28校の最古建物が今後15年間で築50年を経過し老朽化が進行する。</p> <p>しかし、財政状況が逼迫していたため、施設改修については最小限の緊急対応もままならない状況であった。</p> <p>そこで、今後は豊島区立小・中学校改築計画及び適正化第二次整備計画にもとづき改築計画を実施するとともに、既存の校舎等も計画的に改修をしていく必要がある。</p>

事業コスト

(単位:千円)

構成事務事業	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度 (計画)	重要度	今後の注力度
小・中学校大規模環境整備事業経費	245,474	215,087	491,052	1,309,037	A	継続
小・中学校一般環境整備事業経費	115,181	93,896	87,403	81,567	A	継続
小・中学校みどりの整備事業経費	19,262	17,507	19,369	20,144	A	継続
小・中学校校庭芝生化事業経費	7,283	0	0	37,763	A	継続
小・中学校校具整備事業経費	9,288	7,440	14,746	17,049	A	継続
小学校情緒障害等通級指導学級改修事業経費	0	0	0	4,958	A	継続
小・中学校特別支援教室改修等事業経費	0	0	0	55,293	A	拡充
小学校普通教室整備事業経費	0	0	49,340	66,204	A	継続
小・中学校施設管理経費	50,178	50,453	50,295	52,675	B	継続
小学校借地料経費	85,025	85,732	85,732	87,219	A	継続
小・中学校電波障害共同受信施設維持管理経費	4,779	698	790	3,872	A	継続
竹岡健康学園大規模改修事業経費	0	0	7,977	179,235	B	縮小
竹岡健康学園施設管理経費	2,062	4,814	1,684	1,504	A	継続
幼稚園施設改修経費(大規模改修)	7,455	15,133	0	2,476	A	継続
幼稚園管理経費	1,815	1,163	4,728	8,577	A	継続
直接事業費 計 A	547,802	491,923	813,116	1,927,573		
人件費 (正規職員数)	(5.4)	(4.4)	(4.4)	(4.7)		
(非常勤等職員数)			(0.2)	(0.8)		
人件費 計 B	44,923	37,079	38,697	41,675		
支出 計 C=A+B	592,725	529,002	851,813	1,969,248		
収入 国庫(都)支出金						
受益者負担分						
その他						
収入計 D	0	0	0	0		
一般財源充当額 E=C-D	592,725	529,002	851,813	1,969,248		

現状の評価 A. 予想を上回って達成した場合 B. 大体計画どおりにできた場合 C. 理想の状態を下回っている場合

評価の視点	達成度	達成度及び今後の課題についてのコメント
適切性 (満足度、サービス水準)	A	改修計画に基づいて工事を実施しているが、緊急対応を要する工事にも適宜対応した。
効果性 (財務と施策水準の視点)	B	適切な入札を行った結果、当初予算額を下回る金額で工事を発注することができた。
業務改善 (内部プロセスの視点)	B	学校現場からの改修要望等を取り入れたことにより、効率的に工事箇所の把握が可能となった。
人材育成 (学習と成長の視点、人的資源の最大化)	A	学校内の小破修理については、学校運営課より技術員を派遣し、学校職員で対応できるよう人材育成を行っている。

今後の取組みと予算への反映

	取組み内容	必要(不要)となる経費	影響額(千円)
重点・新規事項	学校改築計画の該当校を除いた校舎等を、10年間で計画的に改修工事を行う。	大規模整備事業経費	6,216,313
見直し事項			

総合評価

現状の評価	(A) 成果をあげている B 普通 C 不十分
今後の事業の注力度	(A) 拡充 B 継続 C 縮小
< 上記判断の理由と今後の改革方針 >	
限られた予算を最大限に活用できるよう、各学校現場の改修要望を見ながら対応している。しかし、老朽化は著しく、なお力を注いでいく必要がある。	